

第6章 推進体制

第1節 庁内の運営体制

本市の文化財行政の体制は表 38、文化財の保存・活用に当たって連携を行う関連部局・関連機関については表 39 のとおりです。また、連携体制には組みませんが、その施策が文化財の保存・活用に波及する部局を表 40 にまとめました。

また、災害時の文化財の救出や復旧など、非常時における文化財の保存については、県や庁内関係部署との連携体制の構築を目指します。

表 38 文化財行政の体制

組織		主な業務内容	構成
教育委員会 事務局	生涯学習 ・文化財保護課	生涯学習、文化財保護・活用 〈生涯学習グループ〉 生涯学習推進計画、青年活動、生涯学習人材活用、 わく湧くお届け講座 〈文化財保護グループ〉 文化財の保護・調査研究・活用、歴史資料の整理及 び公開活用、史跡などの管理、大野市地域計画、化 石関係資料の収集・調査研究・活用、文化財保護審 議会の運営	14 名 (うち、学芸員 3 名)
	博物館	〈大野市歴史博物館〉 大野市の縄文時代から近代までの歴史資料の収集・調 査研究・展示公開 〈大野市民俗資料館〉 民俗資料の収集・調査研究・展示公開	10 名 (うち、兼務 4 名) (うち、学芸員 3 名)
	大野市図書館	図書、雑誌の閲覧と貸出／読書会、講演会、おはなし 会など読書活動を推進する事業の開催	8 名 (うち、司書 5 名)
教育委員会 の付属機関	大野市文化財保護 審議会	文化財の保存及び活用に関する重要事項についての調 査審議、教育委員会への建議	7 名

※令和 7 年 (2025) 4 月時点

表 39 連携を行う庁内他部局・関連機関

組織	主な連携内容	
庁内の 関連部局	教育総務課	小中学校教育の推進、学校給食の運営・食育指導 など
	観光交流課	観光の広報宣伝、観光イベント、観光産業の振興、観光資源の整備活用、自然公園の 管理・活用、星空保護区の取り組み など
	産業政策課	商工業振興、創業・新分野開拓支援、雇用創出、商工労働関係団体への支援、商店街 振興、制度融資、越前おおの産業ブランド力向上戦略 など
	農業林業振興課	農業振興、林業振興、水産業振興、越前おおの型 食・農業・農村ビジョン、農村集落 の活性化 など
	地域文化課	自治会、市民協働、地域支援、公民館、地域おこし協力隊、文化・芸術の振興、文化団 体への支援 など
	環境・水循環課	健全な水環境の推進・普及啓発、地下水保全対策 など
福井県 福井県教育委員会	文化財保護にかかる各種指導、文化財の調査・研究ならびに指定等、指定等文化財の 保護	
国	文化庁	地域計画の認定、各文化財の指定等ならびに保護・指導

※令和 7 年 (2025) 4 月時点

表 40 文化財の保存・活用に関わる庁内他部局

組織	文化財に関わる業務内容
政策推進課	総合計画を通じた文化財に関する施策の推進 など
建設整備課	道路整備、河川整備 など
交通住宅まちづくり課	景観形成、公共交通の運営 など
防災防犯課	防災、自主防災組織の育成、空き家対策 など
消防予防課	火災予防の普及・啓発・指導 など

※令和 7 年（2025）4 月時点

第2節 市民などとの協働体制

本市には、各地区または各自治会の文化活動を行う市民グループやおおの遺産の保存・継承を担う各団体などがあります。今後は、これらのグループや団体などと連携して、本市の文化財の保存・活用を目指していくこととします。

なお、おおの遺産の保存・継承を担う団体などについては、表 41 にまとめました。

1. 市民グループとの協働

市民グループとの連携により、文化財を取り巻く環境が活性化し、文化財の保存・活用が進むことを期待しています。

例えば、本市の歴史・文化の愛好家やボランティアガイドなどさまざまな文化活動を行う団体と連携することで、文化財の積極的な活用のアイデアが生まれ、さらに団体の活動を支援することで、市民の文化財に対する関心を呼び起こすことができます。特に活用により保存につながる活動が重要です（対象事業は、表 23 「調査研究・保存・活用の課題と方針と措置の一覧」を参照）。

2. 文化財の保存・継承団体との協働

おおの遺産の保存・継承を担う団体と無形民俗文化財の保存団体は、本市の文化財を保存・継承する団体です。本市は、各団体の育成支援を行い、該当する文化財の保存・継承を進めていきます。

表 41 文化財の保存・継承団体

指定文化財保存・継承団体

<p>扇踊保存会</p> <p>県指定無形民俗文化財の「扇踊」（上庄地区）は大野市街地から東南へ 16 km 離れた、上庄地区の若生子に伝えられた踊りで「御殿踊」とも言われ、8 月 15 日に踊られました。ダム建設で住民が大野市内へ移住し、大野地区に保存会を置いていましたが、現在は活動を休止しています。</p>
<p>神子踊保存会</p> <p>県指定無形民俗文化財の「神子踊」（五箇地区）は上打波で踊られてきたもので、七月踊・神代踊・お庭踊とも言われています。</p> <p>昔は盆に踊られていましたが、地区の過疎化によりその機会が失われたことから、神子踊保存会では、8 月 14 日に大野市内で「神子踊大会」を開催して踊っています。</p>
<p>平家踊保存会</p> <p>巢原（西谷地区）は、平安末期、源平の合戦で敗れた平家の落人が隠れ住んだ所と伝えられています。県指定無形民俗文化財の「平家踊」（西谷地区）は、落人とその子孫が、むかしの栄華を思い、はるかに京の都をしのびつつ、歌い踊りつがれてきたと言われ、哀愁に満ちた内容です。現在は活動を休止しています。</p>

雨乞い踊り保存会
市指定無形民俗文化財の「三社の雨乞踊り」(乾側地区)は、牛ヶ原庄内の坂戸・尾永見・大門3村共同の鎮守が三社であり、昔は3村共同で雨乞い行事を行っていたと言われていました。現在は尾永見に保存会が置かれています。現在は活動を休止しています。
仕ぐさ踊り保存会
市指定無形民俗文化財の「仕ぐさ踊り」(下庄地区)は菖蒲池(下庄地区)で伝承されている踊りで、殿様の前でも踊ったことがあるといえます。現在は、8月盆の15・16日の夜、白山神社境内で浴衣がけの軽装で楽しめます。他所へ出かけて披露するときは菅笠・たすきを着用することになっています。現在は活動を休止しています。

「おおの遺産」保存・継承団体

大野市朝市出荷組合
<p>おおの遺産「七間朝市」(大野地区)</p> <p>七間通りで開かれる朝市は、金森長近が城下町を整備した際に開いた市が始まりとされます。</p> <p>近隣の農家が野菜などを持ち寄り、町の人々の食料調達場として続いてきました。現在は出荷組合が結成され、朝市の継続に努めています。</p>
里神楽実行委員会
<p>おおの遺産「^{わらびよう}蕨生里神楽」(富田地区)</p> <p>大野市蕨生(富田地区)の住民で構成される団体で、神楽は明治15年(1882)に、篠座神社の里神楽に習い、以後、春祭りに奉納しています。</p>
篠座神社獅子舞保存会
<p>おおの遺産「篠座神社の里神楽・豊栄舞」(大野地区)</p> <p>篠座神社で行われている神楽の起源は最も古く、平安時代と考えられています。一時途絶えていましたが、平成7年(1995)から、再び毎年実施するようになりました。</p> <p>豊栄舞は平成24年(2012)から、小学生が巫女の舞をしています。</p>
木本領家区
<p>おおの遺産「木本領家里神楽」(上庄地区)</p> <p>木本領家里神楽は明治38年(1905)に、篠座神社の神楽を伝承し、豊作を感謝し秋祭りに奉納するものです。小中学生のみこしや踊りを行い、地域の若い世代が関わりを持てるよう工夫しています。</p>
木本区
<p>おおの遺産「木本区初午だんご撒き」(上庄地区)</p> <p>大火事の話から、火除けの行事として伝わるものです。木本(上庄地区)は5つの行政区からなり、それぞれが団子を作って持ち寄り、参拝客に団子をまきます。</p>
篠座神社総代会
<p>おおの遺産「篠座神社の福もちまき」(大野地区)</p> <p>篠座神社の福もちまきは昭和50年(1975)から始めたものですが、大野市内外から多くの人が福を求めて参拝します。</p>
篠座神社と篠座町(旧家23軒)
<p>おおの遺産「篠座町の旧家が持ち回る神明講」(大野地区)</p> <p>篠座町(大野地区)の旧家が持ち回る神明講は篠座神社を含め、元々の集落(篠座村)を構成している旧家で継承されている伊勢講の影響を受けた行事です。年3回行っています。</p>
上大納区
<p>おおの遺産「上大納左義長」(和泉地区)</p> <p>上大納(和泉地区)で行われる左義長は旧暦小正月にナラ・杉・わらで左義長構造物を作り、各戸で用意した裁縫の上達を願う「つつみ」と字の上達を願う「書初め」を付けます。現在は2月14日に行われています。</p>
尾永見神社
<p>おおの遺産「尾永見伊勢講」(乾側地区)</p> <p>尾永見伊勢講では伊勢代参は行っていません。伊勢神宮奉納のための「お神田」がありましたが、その跡に石碑を立て保存しています。料理の献立の決まりを続けています。</p>

鍬掛伊勢講保存会
<p>おおの遺産「鍬掛伊勢講」(小山地区)</p> <p>鍬掛伊勢講では伊勢神宮の代参人を決め、代表の代参後には「はばきぬぎ」をして、お札とお神酒を分け合うという伊勢講の形をよく残しています。</p>
大矢戸区
<p>おおの遺産「行人岩」(下庄地区)</p> <p>道元禅師由来の修験遺跡として多くの修験者がこの岩屋で修業をしたと伝わっています。</p> <p>参拝者が増えたことから、大矢戸区が登山道を含めて保存活動を続けています。</p>
土布子区
<p>おおの遺産「伊勢講」(富田地区)</p> <p>江戸時代、洪水が起きた時に集落の伊勢堂という祠に流木が引っ掛かり濁流が左右に分かれ難を逃れたことから、伊勢講を行うようになったとの言い伝えがあります。味噌を濁流に、大根を流木に見立てて食べることで水害を封じます。講の当番はその年に大根を多く作り、約50~60本を準備します。大根を煮たり講に参加したりするのは男性のみで、講が終わると女性や子どもにも大根がふるまわれます。</p>
下打波区
<p>おおの遺産「下打波白山神社・中神社の祭礼」(五箇地区)</p> <p>白山神社は、泰澄が白山開山の折に山内家に宿泊した時に朴の木で作ったイザナミノミコトが御神体であり、県指定天然記念物のカツラの木(「白山神社のカツラ」)が境内にあります。また、中神社は、江戸時代に平べえという人が洪水後の川に流れてきた仏像をお祀りしたことが始まりの集落の神社で、字と名字が中神となったいわれでもあります。</p> <p>下打波区の全戸は、昭和48年(1973)頃までに住居を大野市街地などに移しましたが、住民が集まる機会を持つために、毎年8月17日に両神社に集まって祭礼を行い、絆を深めています。</p>
稲郷青年会
<p>おおの遺産「稲郷里神楽」(上庄地区)</p> <p>稲郷(上庄地区)で行われる里神楽の始まりは不明ですが、天狗の面には「延宝9年」(1681年)と墨書されていることから、その頃には既に舞われていたものと考えられます。村人の安全と五穀豊穡を願い、9月第2日曜日に八幡神社に奉納される里神楽です。</p> <p>境内に土俵が作られ、神楽の終了後に子ども相撲が行われます。</p>
陽明町一丁目1区
<p>おおの遺産「陽明町一丁目1区の不動明王祭」(大野地区)</p> <p>昭和2年(1927)に町内で発見された不動明王像(石像)を有志で祀ってきました。昭和14年(1939)にお御堂を建てて安置し、不動明王祭りを始めたものです。8月第1土曜日夕方から大宝寺による法要を行います。</p> <p>平成21年(2009)に町内の寄進により御堂の建て替えと雨雪を避けるための建屋を造り、区で管理しています。また、日々のお花やお茶のお供えも区民が継続しています。</p>
明倫町1区
<p>おおの遺産「明倫町1区による乳地蔵のご祈祷」(大野地区)</p> <p>区民の裏庭にあった地蔵を「もっと大通りに出て、世の中の人のために働きたい」という夢のお告げにより、本願清水(大野地区)近くに祀られるようになったと言い伝えられます。</p> <p>この地蔵に、米をお供えして、その米を1週間、本願清水に浸してお参りし、その米でおかゆを炊いて食べると、乳の出がよくなるという伝承があります。</p> <p>4月の篠座神社祭礼前の土・日に、地蔵堂の清掃と、明倫町(大野地区)の曹源寺による祈祷をしています。</p>
穴馬紙大すきの会
<p>おおの遺産「穴馬紙」(和泉地区)</p> <p>穴馬紙は、江戸の初めより旧穴馬村ですかれ、当時は年貢として納められていました。水に強く丈夫で虫が付きにくいのが特長で、障子紙や帳簿などに使われ、冬の副業として盛んに紙すきが行われていました。</p> <p>戦後間もなく廃れましたが、旧和泉村教育委員会に在籍していた社会教育指導員が中心となって復活させ、和泉小学校児童の卒業証書作りを通して穴馬紙を伝えてきました。</p> <p>数年前に和泉公民館職員が作業を引き継ぎ、地元の有志が加わり、平成29年(2017)に「穴馬紙大すきの会」を発足しました。</p>

<p>奥越太鼓保存会</p> <p>おおの遺産「奥越太鼓」(大野地区)</p> <p>莊園時代より大野の地で行われてきた太鼓は、やがて「豊年太鼓」・「雨乞い太鼓」として発展し、人々に親しまれ伝承されてきました。</p> <p>第二次世界大戦によって衰退しましたが、昭和 36 年 (1961)、大野商工会議所と奥越観光連盟が中核となり、今日の「奥越太鼓保存会」の前身である「奥越曲太鼓朋友会」が結成されました。幼児から成人まで多くの市民に伝統芸能を伝承し、奥越太鼓の保存・育成に努めています。</p>
<p>奥越漁業協同組合「アジメ漁」保存研究会</p> <p>おおの遺産「アジメ漁」(和泉地区)</p> <p>アジメとはアジメドジョウの略で、中部・近畿地方の河川中・上流域に分布する日本固有の純淡水魚です。アジメ漁はその捕獲の特徴から「アジメ落とし」・「滝分け」とも言われ、その発祥は定かではありませんが、大正時代には行われていたと推測され、その伝統漁法は和泉地区で現在も引き継がれています。6月下旬に入札により仕掛け場所を決定し、9月末まで捕獲が行われています。</p>
<p>川合区</p> <p>おおの遺産「お箸始め」(和泉地区)</p> <p>川合道場に伝わる正月行事です。</p> <p>毎年1月1日に集落内の全戸から人々が道場に集まり、御酒と雑煮をいただくもので、集落での食べ始めとなります。</p> <p>行事の始まりは不明ですが、大正の初めには行われていました。</p>
<p>深井区</p> <p>おおの遺産「深井の講」(小山地区)</p> <p>「観音講」「庚申講」「二十三夜講」を、集落の春日神社観音堂やふれあい会館で行っています。</p> <p>観音講は、市の文化財(彫刻)に指定されている「木造子安観音」に対する講であり、1月・2月を除いた毎月行っています。</p> <p>庚申講は、2カ月に一度、偶数月に行い、床の間に「青面金剛」の掛軸と供え物を飾ります。</p> <p>二十三夜講は、1月のみ行う、月待ち行事の一つです。</p> <p>いずれも行事の始まりは不明です。</p>
<p>大宝寺</p> <p>おおの遺産「新四国八十八ヶ所お砂踏み法要」(大野地区)</p> <p>大宝寺境内に四国八十八ヶ所霊場の石仏が安置され、各霊場から持ち寄ったお砂が埋納されています。毎年9月1日に法要が営まれ、大宝寺住職の先導の元、参拝者はお砂の上を踏みわたります。この法要は、大正10年の石仏安置以来、続けられています。</p> <p>平時は厨子内に納めている旧丹生寺本尊である山王権現像を祭壇に祀っており、また、かつては大般若経の転読が行われていることから、檀家にとどまらず地域住民など広く参拝を促す歓迎を目的とした行事だったと推測できます。</p>
<p>小矢戸区</p> <p>おおの遺産「水神さんの参詣」(下庄地区)</p> <p>小矢戸地区は背後の山に奥行きがなく、水源として不十分なため生活水に困ることから、古くから湧水地を大切にし、水神である罔象女神を祀っています。始まりは不明ですが、昭和初期にはすでに行われていました。</p> <p>この祭礼は、毎年6月の第一日曜日に執り行われ、準備を含めすべての地区の婦人会が主催します。祠の紅白幕は婦人会役員が縫って作り、毎年掛け替えており、清浄を保っています。</p> <p>地区の行事は他にもありますが、この参詣は欠かしたことはありません。</p>
<p>中荒井町一丁目区</p> <p>おおの遺産「鉛筆供養」(下庄地区)</p> <p>地区の左義長に合わせ、使い古した鉛筆を供養することで子どもの学力向上などを祈願する行事です。</p> <p>子どもの代表者が行事の中心的役割を担っており、子どもらは自身が地区の一員であることを強く認識できます。</p>

阿難祖領家区・阿難祖地頭方区
<p>おおの遺産「阿難祖八坂神社の祭礼」(小山地区)</p> <p>阿難祖領家区・阿難祖地頭方区の境に建つ八坂神社の祭礼を、両区が1年交代で担当しています。</p> <p>鎌倉時代以前には両区は合わせて「阿難祖村」でしたが、「下地中分」によって分割されたと考えられることから、分割以前の両区の間関係を留めていると思われます。</p>
上据区
<p>おおの遺産「上据区の田休み」(上庄地区)</p> <p>集落内の浄土真宗寺院の脇陣に十一面観音を安置し、住民が主動して管理しています。</p> <p>一般に一向専修を宗旨とする浄土真宗寺院において密教系の仏尊が安置され、住民によって維持管理がされているところに、教義より住民の信仰心への寄り添いが窺われます。</p>
太田区
<p>おおの遺産「太田白山神社の注連縄づくり」(下庄地区)</p> <p>白山神社の秋祭りに際し、住民が共同して注連縄を織ります。</p> <p>かつては住民が稲わらを1束ずつ持ち寄りました。これは各家の穀霊を集合させて、集落全体の豊作を祈願していたと思われます。</p> <p>現在は稲わらの持ち寄りはありませんが、作業を共同するところに、かつての痕跡を認めることができます。</p>
元町一区2班
<p>おおの遺産「元町一区2班の火伏のご祈祷」(大野地区)</p> <p>住民が持ち回りで「宿」をつとめて火伏の祈禱を行い、各家の代表が集まります。</p> <p>城下町西端に位置する当地区は、町人地の出火が武家地および城内に延焼することがないように、江戸時代を通じて防火対策が徹底されています。宿役として全住民が当事者意識を持つところに、防火意識の維持が認められます。</p>

その他の無形民俗文化財保存団体

穴馬民踊保存会
<p>穴馬踊り(和泉地区)の元は道場での踊りが主で、畳を上げ、下駄で床板を鳴らしながら踊ったものです。シッチョイチョイの歌詞には源義平の伝説が含まれます。</p>
小山鍬おどり保存会
<p>小山地区での1年の農作業の様子を表したもので、かすりを着て、鍬を持って踊ります。</p>
西谷もじり保存会
<p>廃村になった西谷村でモジリ袖の着物で踊ったことが名前の由来となっています。元は正月の間に1日ずつ集落を変えながら踊りました。</p>
越前大野おどり保存会
<p>お盆の時期に行われるおおの城まつりで「大野音頭」・「御前踊り」・「しっちょいな節」・「神子踊」を伝承しています。小学校などでも踊りの指導を行っています。</p>
上庄踊り振興会
<p>上庄地区には、その昔、干ばつから村人を救うため、自らの命をささげた麻那姫(まなひめ)の伝説が語り継がれています。この麻那姫伝説を後世に語り継ぎ、地域おこしの一つとして「麻那姫音頭」が作られました。毎年、小学生が踊りを覚えて地区内外のイベントで披露しています。</p>
下庄史跡めぐり踊り会
<p>『ふるさと「下庄」巡り旅』は下庄地区を広く知ってもらう活動の一環として平成29年(2017)に歌が、平成30年(2018)に踊りが制作されました。歌詞には下庄地区の名所旧跡が次々登場します。</p>
結の故郷里芋音頭愛好会
<p>結の故郷・里芋音頭は、大野市制60周年・結の故郷発祥祭のイベントで初めて披露されたもので、大野市出身のシャンソンシンガーが作詞作曲を、地元の舞踊家が振付を行いました。</p>

※令和7年(2025)4月時点

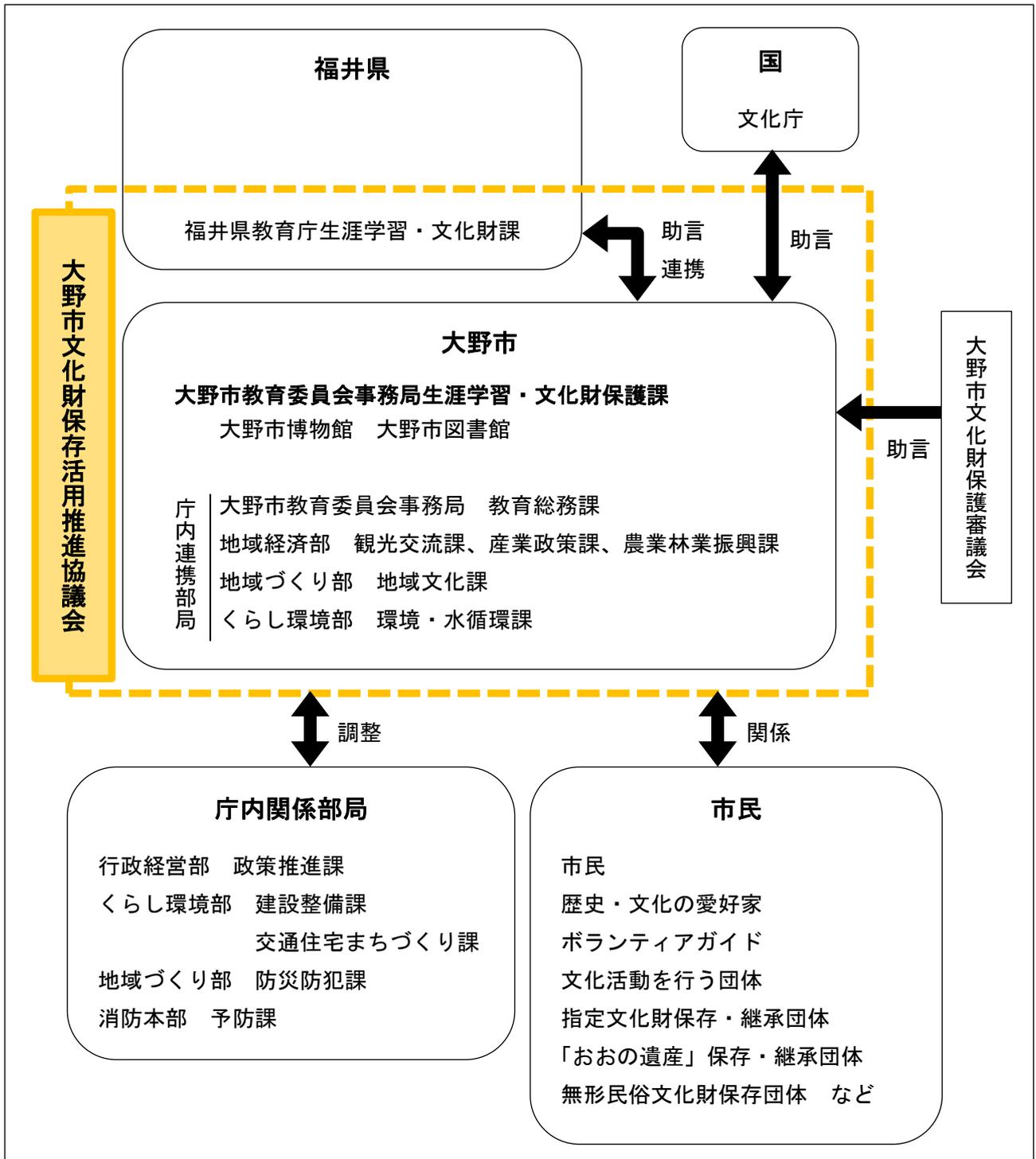


図 54 連携体制